

報告者：久木留 毅（文学部教授）

デュアルキャリア調査

12月1日(日)–2日(月) ■ 英国・バース大学

2012年パラリンピックの拠点であり、2014年コモンウェールズに向けた競泳競技拠点(ラフバラ大学と2カ所)。バイアスロン連盟、ボート部コーチおよびアスリート、アスリートライフサポートスタッフから有益な情報を収集できた。

12月3日(火) ■ フィランド・NOC 他

教育に力を入れる国として当初からデュアルキャリアの重要性を認識しヨーロッパの中で中心国であることが理解できた。ただ、課題も多いことがブレゼンおよび情報交換にて把握することができた。

12月4日(水)–6日(金) ■ オランダ・topsport amsterdam, Infostrada sports, International Bacculaureate

オランダは人口、経済を含めて日本より小国にも関わらず、スポーツへの理解と活用に優れていることが理解できた。日本の強みを活かし、弱みを補うための戦略構築のヒントを多く得ることができた。とにかく、顔を合わせ話しをすることの重要性を改めて認識した。

12月8日(日)–10(火) ■ フランス・INSEP

フランスは2024年オリンピック・パラリンピック招致を視野に入れた場合、ヨーロッパにおける拠点候補の一つである。しかし、さらに調査を重ねた上で連携を考える必要がある。

12月11日(水) ■ 英国・TASS

TASSの主要メンバーからのヒアリングを実施した。久しぶりに責任者のGuy氏とも会い多くの情報交換ができた。ネット上他で調べた内容を本人に確認していく作業は情報の深化度を上げるために不可欠である。

■ 馳代議士対応(フランスデュアルキャリア調査期間中)

同時期にIOC等への御礼巡業にフランス・パリを訪問していた馳監督への情報提供と訪問先のアテント。

## ■ラフバラ大学研究拠点活動報告

No.15



報告者：久木留 毅（文学部教授）

12月12日(木)

■INSEP 視察およびミーティング(フランス・INSEP)

INSEP を再び訪問し、フランス自転車チームヘッドコーチ(NZ)とミーティングを実施した。現場からの意見は貴重であると共に、多くの部門から情報を集めて分析することの重要性を改めて確認できた。



12月13日(金)

■指導者の現場視察およびミーティング(フランス・パリ STADE FRANCAIS)

研修中の柔道・谷本歩実さんを訪問し、コミュニケーションをとった。研修制度の課題等に関する情報を多く得ることができた。



12月17日(火)

■ 第2回目日本人留学生を対象とした人材育成勉強会

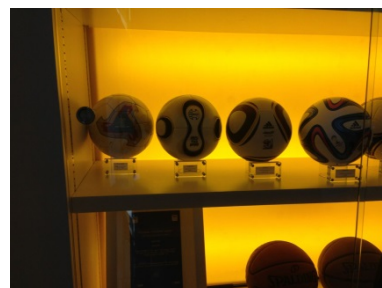
2回目の勉強会を実施した。少しずつ良くなっていく可能性が垣間みられた。今後も日本の大学との連携を含めて有益な活動としていきたいと考えている。



12月19日(木)

■ 友人訪問対応

大学内施設見学、およびミーティングを実施した。写真は Sports Technology Institute 内。新しくアディダスと開発した2014年ワールドカップ用のボールも展示されていた。



まとめ

-----

海外調査で得た情報を基にミーティングを行い、情報を組み合わせていく作業も必須である。合わせて一面だけの情報を基に計画、戦略を立てるのも危険であることを改めて認識した。そのためにも信頼できるネットワークを多く構築し、定期的に会ってミーティングをすることが重要である。本在外研修は、密度の濃い有益なものとなっている。